



編集後記

最近、あまりにくだらない日本のテレビ番組に業を煮やして、テレビを点けないか、あるいは有料テレビの海外ドラマや映画を見る機会の方が多し。今号のインタビューで武田総務大臣もおっしゃっているが、

民放の体たらくに迎合するNHKのプログラムは尚更見る気がしない。

武田大臣のおっしゃる通りに、「家族が揃って観る事ができて、楽しくて、知識が得られる」そんな番組がなかなか見つからないのだ。

新型コロナウイルス感染症のおかげで、自宅に居ることが多い人々にとって、テレビというのは大切な外界との接点であり、そして自宅での時間を有益なものにしてくれるものであってほしいのだが、民放に至ってはすべてがそうだというつもりはないが、スポンサーの意向なのか、局側の意向なのか、あるいは制作費の面で苦しいのか、余りにも低俗で下品な内容のものが多過ぎはしないだろうか。

お笑いタレントと称する出演者た

ちが、大した勉強もせずに、ひたすら口からでまかせに「トーク」とやらを次々に繰り出すバラエティ。あるいはそうしたタレントたちがあちこちで下品なモノの食べ方と物言いを展開する旅番組やグルメ番組：どれも見るに堪えないと思うのはひとり筆者だけなのだろうか。

いっそや服部幸應先生のお話をうかがった折に、件の「料理の鉄人」の審査員として登場した女性タレントがあまりに酷い箸の使いようだったので、収録を中断して、箸の使い方の特訓をしたという逸話を伺ったことがあるが、宜なるかな。箸使いのみならず、食べ方そのものや言葉遣いなど、目に余ることを挙げればキリがない。

親しみを持って迎えられる行為と、下品な行為は根本的に違うと思うのだが、昨今は下品な言動や態度の方が視聴者に受け入れられるのだろうか。

民放に関しては「エンターテインメント」という絶対条件が燦然と存在し、そこに「視聴率」などという数値が絡んでくるので、ある部分で致し方のない面もあると思うが、出演者が下品

で粗野な言動をしてスポンサーは大丈夫なのだろうか。それとも企業イメージなどより視聴率という数字の方が大切なのだろうか。

武田総務大臣のおっしゃるように、せめて、スポンサーの顔色もななく、常に中立な立場でいられる筈のNHKには、公共放送として国民の役に立つという観点で、面白可笑しいだけでなく、「ためになる」という側面も訴求する番組作りをしていただけたらと願う。

そうならば、少なくとも受信料に対する苦情や不満の要因の1つは解消できるのではないだろうか。

そんなことを思いながら有料放送を観ていたら、連続ものの新作がコロナ禍の影響で収録できず、続編は遙か先になる旨のお知らせが表示された。思わぬところに新型コロナウイルス感染症の「とばっちり」である。

NHKのみならず、日本のテレビ業界にぜひ奮起をお願いしたい。「在宅」を強いられる状況では、テレビが頼りなのだから。

そしていくつかではあるが、ためになる、心に残る番組が民放にも存在しているのだから。

(溪)

月刊 公論

1月号 第54巻1号

令和3年1月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,000円(税別) 送料87円

発行人 大 中 吉 一 編集人 林 溪 清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣濟堂
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。